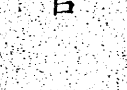


0100

第三號

大臣 	決裁	受領	了結	提出年月 明治三十二年十二月廿六日	立案 三號 第四号	受領番 號	件名	先理總長、以通牒集
次官 	主務局部長 	聯帶局部長	聯帶課長	廳名	受領軍事機密第四号	伊豆破台採道上必要人様式採定係人件		
高級副官 	主務課長 				主務課員 	立案局課ノ校合者 	工兵会隊	
主務副官 								

堡壘の各據点上必要なる様式擬定に關し	工兵會議の長建議、教へたり、爾所迄、	許多限り、之に準據し建築方實施スル様式	増し本ア長、直々、乃ち各の通達なり	區々堡壘の各據点、掃式お冊三部收送自外	海軍機甲	送附第 三	號 二月九日
---------------------------	---------------------------	----------------------------	--------------------------	----------------------------	-------------	--------------	---------------

2010



軍機密文部軍号所

大臣	次官	高級副官	主務副官
受領	主務局部長 	主務課長 	主務課員 
了結	聯帶局部長	聯帶課長 	立案校正者 
目録	明治三十九年九月二日	二般第四八號	
發願	密達外五七四号(三十五年)	廳名	工兵会隊
件名	堡壘砲台據点之必要(様式指定)件		
工兵会隊之件			

癸年十月 儀秘甲分四一号ヲ以テ 倭皇紀ヲ採造
 上必要ナル 様式採定ニ係ル 建後ノ儀ニ有ル所々
 通年増部本アリキ 亦モ其ノ中ニ有ルヘシ

九月二日

倭皇紀ヲ採造ニ必要ナル 様式採定ニ係ル所々

工兵会談々長 建後ノ儀ニ有ル所々 採定ニ係ル所々
 之ニ準據シ 建後ノ儀ニ有ル所々 採定ニ係ル所々

九月二日

倭皇紀ヲ採造ニ必要ナル 様式採定ニ係ル所々

倭皇紀ヲ採造ニ必要ナル 様式採定ニ係ル所々

審 案 用 紙

陸軍省、お達しを案山心得へし
通す亦承知し用満通すこと

密發第一〇九號

九月二日

陸軍省、お達しを案山心得へし
通す亦承知し用満通すこと

陸軍省、お達しを案山心得へし
通す亦承知し用満通すこと

陸 軍 省

堡壘砲臺構造上必要なる様式撰定、係ハ審議書
 軌近兵艦ノ進歩ハ旧式築城ノ抵抗力ヲ脆弱ナラシメ
 更ニ堅強ナル構築ヲ要求スルに至リ茲ヲ以テ本會
 議ハ去明次十九年以來之ヲ調査、從事シ今ヤ堡壘
 砲臺構造上必要なる様式撰定ニ関スル素質ノ一部ヲ審
 議決定セリ抑モ爰ニ逐次記載スル所ノモノ主トシテ陸海兩
 防禦共其之レニ受クヘキ敵火ノ威力ニ對抗シ得ヘキ強度
 ヲ附與スル目的ヲ以テ調査セリト雖モ素ヨリ我國ノ經濟
 及工業ノ程度ヲ顧慮シ且ツ所要ノ性能ヲ先備シ得ル
 限リ務メテ様式ノ單簡齊一ヲ期セラルトス



密受第九七号

議秘軍第四一號

堡壘砲臺構造上必要之樣式撰定之條を建議

堡壘砲臺構造ノ樣式ハ當代兵器ノ威力如何ニ照シテ之カ相當
ノ措置ヲ採ラサルヘカラス輓近火砲ノ制式及彈丸ノ効力俱々長足
ノ進歩ヲ以テ益々精良ヲ極ムル時々方テ堡壘砲臺ハ尙ホ依然舊時
ノ構造法ヲ賴ルカ如キ其不利之ヨリ大ニハナレ故、該構造ノ樣式上
大ニ變更ノ必要ヲ感スル一歟シトセス依テ去年九月來委員ヲ設
ケテ之カ調査從事セシメ堡壘砲臺構造上必要之樣式ノ一部份敢テ
紙ノ通り議決候間爾後之ニ準テ實施相成様方可然此段及
建議候也

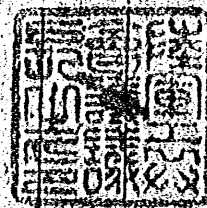
逐々他ノ部分ノ屬ス諸件ハ他日審議決定ノ上逐次進呈

可致此段中添候也

明治三十一年十月十九日

工兵會議長吉川宣譽

陸軍大臣子爵桂大郎殿



軍事機密



陸軍砲兵會
機密甲第一

號

陸軍省
受領軍事機密第四〇號

堡固聖砲台構造ニ必要ナル
砲式撰定ニ関ス

ル事ヲ知照スルニ付
此ノ如キニ

軍工

堡固聖砲台構造ニ必要ナル
砲式撰定ニ関ス

此ノ如キニ
砲式撰定ニ関ス

第一ノ如キニ
砲式撰定ニ関ス

七ノ如キニ
砲式撰定ニ関ス

明治三十四年九月九日

砲兵局長
櫻井

陸軍砲兵會
機密甲第一

8010

陸軍砲兵會
機密甲第一

陸軍砲兵會
機密甲第一

6010

堡壘砲台構造ノ様式

軍事機密第

號

者管保

明治三十二年十月

日於陸軍省印刷部
五部
〇部
内敷

堡壘砲台構造ノ様式

堡壘砲台ノ断面

其一 胸牆

甲 陸正面堡壘砲台

一陸正面ヨリスル敵ノ砲撃ニ對抗スヘキ胸牆厚ハ堡壘砲台ノ位置ト其附近ノ地形ニ依リ変化スヘキハ勿論ナリト虽凡通常尋常土ニテ十乃至十二米突比噸ニ在テハ三乃至四米突トシ頂斜面ノ傾度ハ地形ニ依リ適宜ニ之ヲ定ムルヲ要ス

二内斜面ハ土製胸牆ニ在テハ通常平時一分一トシ戰時之ヲ一分三ニ削截ス但シ火砲ヲ備フヘキ部分ハ平時ヨリ

厚サ一米五十ノ比噸被覆ヲ施ス

三胸牆除土ヨリ成リ其實堅固ナル片ハ切取りノ俣トナシ

内斜面ハ單ニ被覆ヲ施スノミ若シ積土ナル片ハ可成石

塊(大ナルヲ可トス以下皆同シ)ヲ比噸被覆ノ前方ニ填實

シ其上面ヲ土壤ノ一層(約一米突)ヲ以テ掩覆スヘシ(海正

面堡壘砲台モ亦之ニ同シ)

四自然地上ニ出ル火線ノ高サハ地形ト目的トニ依リ変化

アルヘント蚩凡人員材料及軍需品ヲ敵火ニ對シ掩護ス

ルノ方法ヲ其巔頂下若クハ之ニ接近シテ設備シ得ル片

ハ務メテ之ヲ低下スルヲ利アリトス但シ約四百米突以

内ノ地ヲ能ク射撃シ得ル如クスルヲ要ス

五踏蹂ノ幅ハ通常火線ヨリ測リ二米突トス但シ待機砲ヲ 配備スルノ目的ヲ有スル片ハ之ヲ五米突トスヘシ而シ テ其火線トノ標高差ハ通常一米三十トス	六踏蹂斜面ハ通常二分一トス	七外斜面ハ通常三分二トス	乙 海正面堡壘砲台	一大威力ヲ有スル海軍砲ノ砲撃ニ對抗スヘキ直接照準砲 台ノ胸牆厚ハ通常尋常土ニテ十二乃至十五米突トシ比 噸ニ在テハ六乃至八米突トシ頂斜面ノ傾度ハ通常十分 一トス	二内斜面ノ編成ハ陸正面ノモノニ準ヌ但シ比噸厚ヲ二米
--	----------------------	---------------------	------------------	---	----------------------------------

五十トスルヲ異ナリトス

三間接照準砲台ニ在テハ砲床面上ニ米突ニ於ケル胸牆厚
ヲ通常十五米突巔頂ニ於ケル厚サヲ六米突トナス但シ
同上低射界砲台ニ在テモ亦之ニ準ス

其二 障礙

一永久築城断面ノ障礙ハ通常外壕ヲ以テ定規トス而シテ
通常外岸ヲ被覆スヘキモノトス但シ壕内ハ有威ニ射撃
セラル、如ク編成スルヲ要ス

二壕ノ底幅ハ六米突以上トシ外岸被覆高ハ通常四米突ト
ス而シテ外岸壁ハ比噸ノ一塊ヨリ成形セシメ上部ニ於
テ少クモ三米五十ノ厚サヲ附與セシム若シ土質粘土ナ

ル片ハ壁ノ上部最厚部ノ外方ニ石塊ヲ填實シ土壤ヲ以テ之ヲ掩覆スヘシ

三内岸ハ通常三分二ノ傾斜トシ外斜面トノ中間ニ幅約一米突ノ崖徑ヲ存セシム

四通常壕ヲ以テ永久築城ノ障礙ト規定スト虽凡堡壘砲台ノ位置地質及其具備スル要重ノ程度ニ從ヒ或ハ其被覆ヲ省略シ或ハ断面ノ形状ヲ扁平ナル三角形ニ編成シ壕内ニ鐵柵若クハ鉄條網ヲ設置シ或ハ戰時適宜ニ副防禦物ヲ設備シ得ル如クス又地形ト地質トニ依リ外斜面前ニ断崖ヲ設ケ壕ヲ全ク省略スルアリ

横墙

一横牆ノ巔頂ハ一般ノ場合ニ於テハ火線ト同水準ニ置ク
 モノトス但シ堡壘砲台ノ位置標高及地形ノ如何ニ依リ
 縦射或ハ斜射ニ對スル危害大ナリト認ムル場合ニ在テ
 ハ火線ヨリ高起セシムルアルヘシ

彈藥

彈室層高付規則中彈藥ノ蓄表ニ依リ

彈藥ハ通常彈室砲側庫彈廠火藥支庫及彈藥本庫ニ分藏ス

其一 彈室

一彈室ハ内斜面及横牆ノ脇側等適宜ノ場所ニ設クル彈室

ノ格納所ニシテ之ニ備フル彈數ハ各種砲每一門ニ付概

半左ノ如シ

刪

除

廿四門以上ノ火砲

約二十五發

彈藥ハ
 彈藥本庫
 彈藥支庫
 彈藥廠
 彈藥側庫
 彈藥室

概	ス	仁	テ	ク	ク
---	---	---	---	---	---

0116

淨量ハ下ノ十七少ク加ヘ本文
 淨量負數ニ關スル規則ヲ削除相
 一 要案淨量備附規則ハ淨量
 著表ニ依リ
 兵 署 課

4170

二
論

一
砲

除

附錄

陸軍省

十五珊米以下ノ火炮

約五十發

速射砲

約百發

其二 砲側庫

一砲側庫ハ通常横牆下ニ火炮二門毎ニ一庫ヲ設ク其之ニ收容スヘキ彈藥數ハ每一門ニ付概ネ左ノ如シ

陸正面

三十発ノ彈丸百二十発ノ裝藥

海正面

三十発ノ裝藥

但シ速射砲ハ陸海兩正面ヲ問ハス百八十発ノ彈藥
二砲側庫ハ通常比噸ヲ以テ成形セシメ概ネ左ノ厚度ヲ附
與ス

陸正面

脚壁	穹窿	ノ厚サ	張間一米五。以内ニ在テハ一米五。
奥壁			同 二米五。以内ニ在テハ二米。
海正面			
脚壁	穹窿	ノ厚サ	張間一米五。以内ニ在テハ一米。
奥壁			同 三米。以内ニ在テハ一米五。
三岩石地ニ構設スヘキ砲側庫ニシテ掩護確實ナリト認ム			
ル片ハ脚壁及奥壁ノ厚サヲ適宜減少シ得ヘシ			
四陸正面ヨリノ砲撃ニ對抗スヘキ砲側庫ハ壁礎ヲ水平ニ			
脚壁外若クハ垂直ニ脚壁下ニ適宜延伸シ以テ曲射彈ノ			

海正面

危害ヲ豫防スルヲ要ス但シ壁礎ヲ置クヘキ土地岩石ヨ
 リ成形セラル、カ若クハ掩覆堆土ノ厚サ六米以上ヲ有
 スル片ハ該處分ヲ省略シ得ヘシ
 五穹窿ハ可成半圈穹窿ヲ用エルヲ可トス又奥壁ハ通常之
 ヲ弧形ニ構設スルモノトス
 六砲側庫ノ入口ハ少クモ榴霰彈及破片ニ對シ防護スルヲ
 要ス

其三 彈廠

一彈廠ハ堡壘砲台内若クハ其附近適當ノ位置ヘ單簡ニ設
 クルモノニシテ彈丸定數中彈室及砲側庫並彈藥本庫ニ
 收容スヘキ彈丸ヲ除キ其殘餘ヲ格納ス而シテ其一側若

陸軍工務局

クハ附近ニ填藥所ヲ置クモノトス

二彈廠ヨリ砲側へ彈丸ヲ送致スル為メニハ十五坪以上ノ砲種ニ在テハ通常輕便鐵道ニ依ルモノトス

其四 火藥支庫

一火藥支庫ハ各砲台又ハ堡壘内若クハ附近適當ノ位置ニ若クハ數堡壘砲台ノ為メニ構設シ以テ掩護ノ確實火藥保存ノ適良ヲ計リ而シテ其廣サハ全備砲ニ應スル定量ノ火藥中砲側庫及彈藥本庫ニ收容スヘキモノヲ除キ其殘餘ノモノヲ收容スルニ足ルヲ要ス

二火藥支庫ハ火藥保存ノ適良ヲ得セシメシカ為メ掩護確實ナル中ハ可成地下ノ構造法ニ依ラサルヲ良トス

三火藥支庫若シ前項ノ處分ニ依リ難キ片ハ此頃ヲ以テ掩護ス然ル片ハ其厚度ハ砲側庫ニ準ス但シ充分ナル掩覆堆土ヲ得ル片ハ適宜其厚度ヲ減少シ得ヘシ又本文ノ場合ニ於テハ火藥保存上ニ関スル處分ハ特ニ充分ナラシムルヲ要ス

其五 彈藥本庫

一彈藥本庫ハ數堡壘砲台若クハ全要塞ノ為メ一個若クハ數個ヲ設クルモノニシテ要塞内最モ安全ニシテ運搬ニ便ナル地点ニ構設ス

砲坐

一砲坐ハ火砲一門若クハ二門ヲ裝備ス而シテ通常二十四

陸軍工程會義

珊采以上ノ加農ニ在テハ一門砲座トシ其他ノ火炮ニ在
テハ二門砲座トス

二制式火炮ヲ裝備スヘキ砲座ニハ火炮一門ニ付約米左表
ノ幅負ヲ附與シ其他ノ火炮ニ在テハ口径及ヒ砲架ノ構
造異ナルニ從ヒ適宜之ヲ増減ス但シ九珊采臼砲ノ為メ
ニハ特ニ砲座ノ幅負ヲ定メス

火炮ノ種類	砲座ノ巾	砲座ノ奥行
廿七珊采加農	十米	十二米
廿四珊采加農及廿八珊采榴彈砲	八米	十米
十二珊采九珊采加農 (單發速射共) 及十五珊采臼砲	六米	六米
三制式火炮ノ砲軸間隔(二門砲座ノ片ハ兩砲座ニ於ケル最		

近砲車ノ軸心間隔ハ砲台ノ任務及地形ニ因リ變更ヲ要スヘキモ通常廿四冊米以上ノ火砲ニ在テハ二十米乃至廿五米其他ノ火砲ニ在テハ十五米乃至二十米ノ間隔ヲ保タシメ制式以外ノ火砲ニ在テハ火砲ノ種類及ヒ口径ノ大小ニ因リ尚適宜之ヲ増減スヘシ但シ九冊米臼砲ノ為メニハ特ニ砲軸間隔ヲ定メス 四膝部高ハ火砲ノ種類及前項同一ノ主旨ニ依リ頂斜面ノ傾度変化スルニ應シ左表ノ尺度ヲ保タシムルモノトス但シ榴彈砲及輕砲ニ在テハ頂斜面ノ傾度ニ關スル尺度ハ特ニ規定セス	火砲ノ種類	頂斜面傾度或射撃種類	膝部高若クハ掩体高
---	--------------	-------------------	------------------

0125

廿七冊米加農	十分ノ一	二米一五
	八分ノ一	二米〇五
	六分ノ一	一米九〇
	三分ノ一	一米二五
	十分ノ一	二米〇〇
	八分ノ一	一米九〇
廿四冊米加農	六分ノ一	一米七五
	三分ノ一	一米二〇
	速射砲	約二米〇〇
十二冊米及九冊米加農	單發砲	約一米四〇
	間接照準射撃	四米〇〇以上

廿八 珊米榴彈砲	同低射界射撃	約二米五。
十五 珊米臼砲	直接照準射撃	二米乃至二米五。
機關砲	〃	約三米
五重砲々坐ノ一側若クハ横牆ノ後方等適當ノ位置ニ鉄製ノ棚ヲ取附ケ測遠機用通信器ヲ裝置シ得セシム	〃	一米三。
六砲坐ト墨道及砲側庫トノ交通ハ要スレハ斜坂(重砲ニ在テハ六分一以下輕砲ニ在テハ四分一以下)若クハ階段ニ由ルモノトス		
側防		
一壕ノ側防ハ通常外岸ノ凹角ニ設クル穹窿ヨリス		

二側防穹窿ハ比噸ヲ以テ構造ス而シテ穹窿砲咄ノ幅負ハ

火砲一門ニ付キ張間奥行高共通常各二米五〇トス

三側防穹窿ノ穹窿ノ準線ハ側防スヘキ壕ノ方向ト平行ス
而シテ掩護ノ程度ハ通常左ノ如シ

穹窿ノ厚 二米〇〇 (脚壁ノ厚サハ之ニ準ス)

面壁ノ厚 〇米八〇 (外岸被覆壁面ヨリ稍退戻セシム)

奥壁ノ厚 二米〇〇 (通常ノ土質ニ在テハ奥壁ノ後方

ニ尚多量ノ石塊ヲ填實スルヲ要

ス)

四砲門ノ大サ及膝部高ハ砲種ニ應シテ之ヲ定ム而シテ砲

門底ト壕底トノ水準差ハ通常一米五〇トス

五砲門ノ構造ハ單簡狭小ヲ主トシ尙要スレハ防楯ニ依テ 砲手ヲ掩護ス	六穹窿ノ自衛ヲ確實ナラシムル為メ穹窿前ニ小壕ヲ設ケ 其深サヲシテ砲門ノ外底ヨリ三米以上ナラシム而シテ	穹窿前ノ死角ヲ全ク消滅セシムル如ク銃眼ヲ設ク	七穹窿内適當ノ場所ニ左ノ設備ヲ要ス	彈藥格納所	携帶口糧置場	飲料水置場	成兵三分ニテ休憩セシムヘキ裝置	便所
---	---	-------------------------------	--------------------------	--------------	---------------	--------------	------------------------	-----------

八堡壘ト側防窓ノ交通ハ露天ナルヲ通常トス而シテ
 入口ハ窓ノ一端末ニ設ク其幅負ハ約巾一米高一米五
 。トシ鋼製ノ扉(銃眼ヲ穿チタル)ヲニケ所ニ裝置シ之ヲ
 閉鎖シ得セシム
 九通信ノ為メニハ電話器ヲ設置ス
 十諸開口部ハ所要ニ應シ適宜密閉シ得ヘカラシムル如ク
 裝置ヲ施スヘシ